



20xx 年 xx 月 xx 日

株式会社 御中

三井物産クレジットコンサルティング株式会社

貴社債権の信用リスク定量化分析結果のこと

掲題に関し以下の通りご報告申し上げます。

記

1. 分析対象債権

貴社からお預かり致しました(20xx 年 xx 月末現在の)債権リストを集計したところ、債権社数(無格付先=NR 先含む)として 1,000 社、債権額は 160,124 百万円となりました。当該債権ポートフォリオに対して信用リスク定量化分析を実施致しました。

格付別債権分布表 [20xx 年 xx 月末データ]

格付	社数(社)	構成比	債権合計額(円)	構成比	1社当たりの債権額合計(円)
S1	112	11.20%	14,964,492,978	9.35%	133,611,544
S2	83	8.30%	18,141,313,574	11.33%	218,570,043
S3	103	10.30%	12,615,042,880	7.88%	122,476,144
S4	142	14.20%	19,229,773,333	12.01%	135,420,939
S5	124	12.40%	14,484,401,888	9.05%	116,809,693
S6	132	13.20%	56,883,845,016	35.52%	430,938,220
S7a	40	4.00%	4,019,108,303	2.51%	100,477,708
S7b	56	5.60%	4,415,382,560	2.76%	78,846,117
S7c	24	2.40%	1,128,219,203	0.70%	47,009,133
S8a	34	3.40%	3,032,022,870	1.89%	89,177,143
S8b	26	2.60%	907,828,481	0.57%	34,916,480
S8c	21	2.10%	449,617,844	0.28%	21,410,374
S9a	12	1.20%	1,156,927,670	0.72%	96,410,639
S9b	17	1.70%	958,612,659	0.60%	56,388,980
S9c	23	2.30%	966,048,584	0.60%	42,002,112
NR	51	5.10%	6,771,662,067	4.23%	132,777,688
合計	1,000	100.00%	160,124,299,908	100.00%	160,124,300
NR除外計	949		153,352,637,841		161,593,928

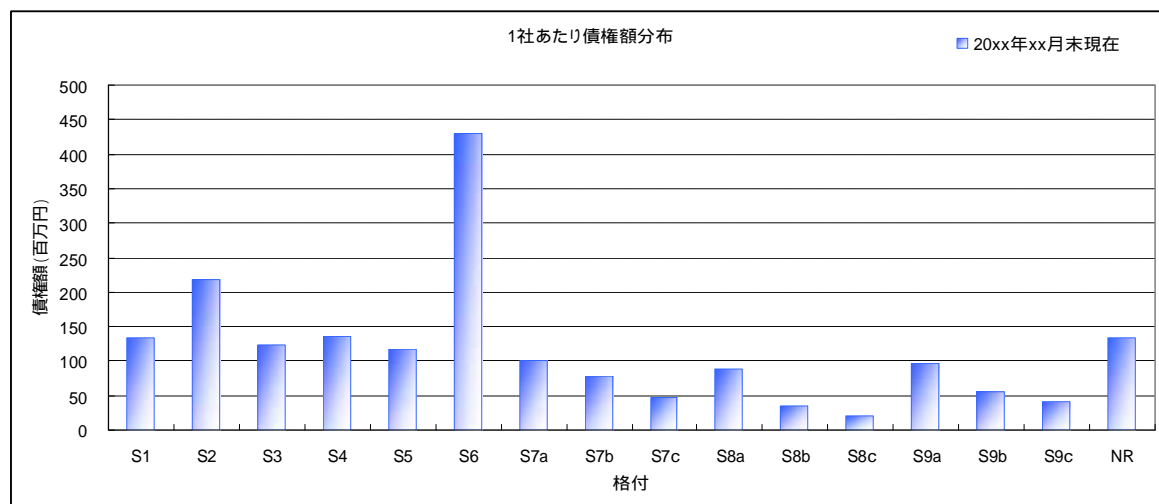
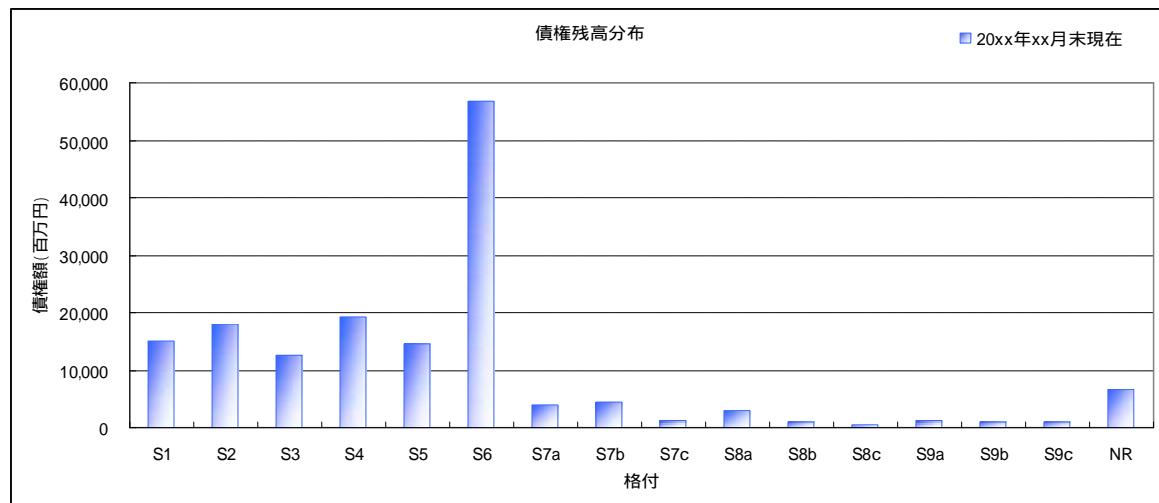
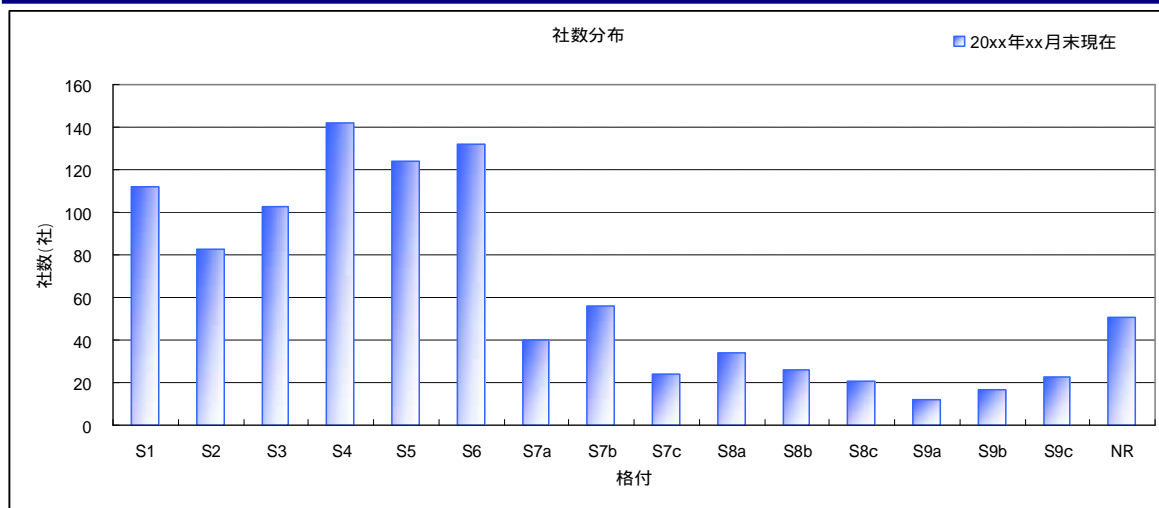
www.mitsui-credit.com

CONFIDENTIAL

「本資料及び添付資料は三井物産クレジットコンサルティング株式会社の営業秘密に該当します。本資料及び添付資料の無断開示、無断複製を禁じます。」



三井物産クレジットコンサルティング株式会社
 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-14-8 TT-1 ビル 5 階
 TEL: 03-5962-3001 FAX: 03-5962-3002
 URL: <http://www.mitsui-credit.com/>
 e-Mail: mcc-info@dg.mitsui.com



www.mitsui-credit.com

CONFIDENTIAL

「本資料及び添付資料は三井物産クレジットコンサルティング株式会社の営業秘密に該当します。本資料及び添付資料の無断開示、無断複製を禁じます。」



2. 信用リスク定量化分析手法

モンテカルロ法により20xx年xx月末債権残高について(「NR」格付を と見なして)としたシミュレーションを、夫々1万回実施しております。尚、シミュレーションは貴社からお預りしたデータに基づいて実施致しました。

3. 分析結果

(1) [20xx年xx月末債権残高]

分析条件			債権合計(円)	平均値		99パーセンタイル値	
倒産確率	NR	備考		【平均想定貸倒損失】		【最大想定貸倒損失】	
				(円)	対債権合計(%)	(円)	対債権合計(%)
3年累積	含む	-	160,124,299,908	2,096,711,449	1.31%	17,056,265,546	10.65%

貴社のお取引先分布を見ると ~ 迄の層が大半を占めており、 は比較的小口分散化されております。

格付ベース:.....、債権残高ベース:.....。

また、 層の一部に大口債権先が存在しています。

この為、最大想定貸倒損失は 、 の大口先がシミュレーション上倒産に当たるケースが大きく影響しております。

今回のシミュレーションで算出された最大想定貸倒損失は貴社の自己資本以内に収まっておりますが、昨今の経済環境に起因し、全般的に格付下落傾向が鮮明となっておりますので、継続的にシミュレーションを行うことをお勧め致します。

(2) 感度分析結果

[20xx年xx月末債権残高]

会社名	債権額	MCC格付	債権合計に対する割合	Correlation
株式会社	3,283,696,500	NR	2.05%	- . %
株式会社	1,956,503,603	NR	1.22%	- . %
株式会社	5,323,755,439	S6	3.32%	- . %
有限会社	456,249,795	S9a	0.28%	- . %
株式会社	6,518,810,381	S6	4.07%	- . %



【感度分析結果について】

感度分析シミュレーション結果の Contribution to Variance は対象予測の散らばりについて各企業(仮定)が影響している割合をマイナスのパーセンテージで表しております。対象予測の不確実性に対してどの仮定が何パーセント関与しているかを表したものです。

【参考:2009年3月期倒産確率(3年累積)】

格付	倒産確率
S1	%
S2	%
S3	%
S4	%
S5	%
S6	%
S7	%
S8	%
S9	%
格付なし	%

以上